



高山記者クラブ同時配布資料

| 平成30年2月6日(火) 岐阜県発表資料 | | | |
|----------------------|-------|-------------------|-------------------------------------|
| 担当課 | 担当係 | 担当者 | 電話番号 |
| 中山間農業研究所 | 試験研究部 | みやもと 宮本・さかがいと 坂垣内 | 直通 0577-73-2029 FAX 0577-73-2751 |

中山間農業研究所(本所)研究成果検討会の開催について

県中山間農業研究所では、中山間地域農業を取り巻く諸課題に的確に対応した新たな技術開発を行うため、地域と一体となった研究に取り組んでいます。

このたび、地域の農業関係者に対して本年度の研究等成果を報告し、生産現場へ迅速な普及を図ることを目的として、下記のとおり成果検討会を開催します。

記

- 1 日 時 平成30年2月13日(火) 13:00~16:10
- 2 場 所 飛騨総合庁舎 分館3階大会議室
(高山市上岡本町7-468 電話:0577-33-1111)
- 3 参加対象者 農業者、農業関係団体・市町村職員等 約100名
- 4 内 容 等

(1) 日程スケジュール

- 13:00~13:15 挨拶、日程説明
- 13:15~14:15 成果発表検討①(3課題;概要は以下のとおり)
- 14:15~14:30 休憩
- 14:30~15:50 成果発表検討②(4課題;概要は以下のとおり)
- 15:50~16:10 速報紹介、挨拶

(2) 成果発表の概要

| 課題名 | 内 容 |
|---|--|
| 酒造好適米「ひだほまれ」の高品質化に向けた施肥体系の検討 (13:15~13:35) | 近年の気象変動の影響により、「ひだほまれ ^{*1} 」の充実度不足 ^{*2} が問題となりつつあるため、施肥の量や回数が品質に与える影響を調査し品質向上のための施肥体系について検討した結果を報告。 |
| 美味しい米作りによる飛騨産「コシヒカリ」のブランド力向上 (13:35~13:55) | 飛騨農林事務所農業普及課が、「コシヒカリ」の食味向上による売れる米作りについて、これまでの現地における普及指導活動経過と内容について報告。 |
| 飛騨産「コシヒカリ」の食味向上に関する研究 (13:55~14:15) | 「コシヒカリ」の更なる評価向上に向けて、施肥方法、移植時期、水管理等の栽培条件が品質及び食味に与える影響について検討した結果を報告。 |

| | |
|--|---|
| <p>輪ギク「飛驒黄金」^{ひだこがね}選抜系統による出荷体系の検討 (14:30~14:50)</p> | <p>1本の茎に1輪の花を咲かせる輪ギクの盆需要に合わせた安定的な出荷のため、「飛驒黄金」^{※3}から選抜した開花期の異なる4系統を組み合わせた出荷体系の有効性について検討した結果を報告。</p> |
| <p>飛驒桃の輸出時における箱内環境改善と輸出に適する晩生品種の選定 (14:50~15:10)</p> | <p>飛驒桃の香港への輸出体系を確立するため、流通時の箱内環境の改善と高需要期である中秋節^{※4}の輸出に適した晩生品種の選定した結果について報告。</p> |
| <p>ハウレンソウ調製機の開発 (15:10~15:30)</p> | <p>ハウレンソウ栽培における作業時間の6割近くを占める調製・出荷作業の効率化を図るため、根切りと子葉や下葉の除去を行う調製機を改良・開発したので、その有効性について報告。</p> |
| <p>夏秋トマト独立ポット耕システムの検討 (15:30~15:50)</p> | <p>夏秋トマトの土壌病害回避と多収栽培の実現を目指して、県独自の独立ポット耕システム^{※5}を開発中のため、これまでの成果の概要について報告。</p> |

【用語解説】

※1 ひだほまれ

高冷地農業試験場（現中山間農業研究所）が酒造用米として育成し、昭和57年に品種登録された水稻品種。飛驒地域を中心に栽培され、主に県内の酒造会社へ契約販売されている。

※2 充実度不足

米粒の厚みや幅がなく、粒張りがよくない状態のものを指す。充実度の不足は米粒の重量低下にも影響を与える。近年の温暖化等が原因の一端であると考えられる。

※3 飛驒黄金

飛驒地域で約40年前から栽培されている黄色の輪ギク。夏季冷涼な気候で栽培されるため黄色が鮮やかで品質が良く、お盆の仏花として市場からの引き合いが強い。平成20年にJAひだは商標登録をしている。

※4 中秋節

中華圏における春節、端午節と並ぶ三大節で国民の祝日。この日を含めて大型連休となり帰省や伝統行事などで需要が急激に高まる。日にちは毎年国から発表され、9月上旬から10月上旬まで年によって変動する。

※5 独立ポット耕システム

専用の培土をつめた不織布ポットに苗を定植し、液肥を用いて栽培する方法。畑に直接定植しないため土壌病害が出にくく、収穫量の増加が期待できる。